

令和5年度 札幌市エイズ対策推進協議会 議事録

日時 令和6年2月15日(木)19:00~20:00

場所 WEST19 2階大会議室

<p>① 開会の辞 (山口保健所 長)</p>	<p>皆さんこんばんは。定刻となりましたので、これより令和5年度札幌市エイズ対策推進協議会を開催いたします。</p> <p>私は、本日の進行を務めさせていただきます、札幌市保健所長の山口と申します。どうぞよろしくお願ひします。</p> <p>令和5年度も変わらず委員の皆様のご意見を参考に、また実際にご協力をいただきながら、エイズ予防対策に当たってまいりました。本協議会は、色々な分野でご活躍されている委員の皆様方から、それぞれの立場や異なった視点からのご意見を頂ける貴重な機会となっております。より良いエイズ対策を推進していくためにも、本日はどうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>なお、例年司会を担当しております医事担当課長の寺田が、本日災害被災地支援で不在のため、保健所長の山口が代わって司会をさせていただきます。</p> <p>本日の会議は1時間程度を予定しております。</p> <p>会議の形式は公開ということで行っておりまして、本日傍聴の方もいらしておりますし、後ほど会議の内容を保健所のホームページに会議録を公開する形になっておりますので、こちらにつきましてもご理解いただきますようお願いいたします。</p> <p>エイズ対策推進協議会規則に基づき委員の過半数の出席となりますので開催要件を満たしていることをここにご報告いたします。</p> <p>先に配布資料の確認をさせていただきます。</p> <p>まず、はじめに別紙1の次第から始まって、別紙10の札幌市エイズ予防対策基本方針まで10種類の資料と、宮の森レディースクリニックの池田先生からご提供いただきました資料、性感染症を診療する科を持つ医療機関あてにお送りした札幌市保健所からのお知らせの資料、最後に、赤色のレッドリボンスタディカードをお手元にご用意させていただいております。みなさま資料につきまして不備等ございませんでしょうか。不備がございましたら事務局にお知らせいただければと思います。</p> <p>では次に開会挨拶にうつります。札幌市保健福祉局医務・健康衛生担当局長の西條よりご挨拶申し上げます。</p>
<p>② 開会挨拶 (西條医務・ 健康衛生担 当局長)</p>	<p>皆さんこんばんは。札幌市医務・健康衛生担当局長の西條でございます。本日はどうかよろしくお願ひいたします。本日は本当に忙しい中ご出席下さり、お礼申し上げます。令和5年度札幌市エイズ対策推進協議会の開会にあたりまして、一言私の方からご挨拶申し上げます。</p>

札幌市エイズ対策協議会につきましては、札幌市におけるエイズの感染の予防及びまん延防止について、多方面の委員の皆様にご参加をお願いし、ご審議いただくこととしています。

今回は、役員の改選があり新たに4名の方を委員としてお迎えすることになっております。本協議会の趣旨をご理解いただき、快く委員をお引き受けくださったことに対して、厚くお礼申し上げます。

近年、エイズに対する治療薬や治療法の進歩、HIV 感染の早期把握、治療の早期開始・継続により、HIV に感染したとしても疾患としてのエイズ発症が防がれるようになっております。また治療薬の投与法を工夫することで、ヒトからヒトへの HIV 感染のリスクを極めて低減させることができるようになるなど、進歩が目覚ましいところです。

一方で、アフリカにおける風土病的感染症、MPOX ウイルス感染症が MSM コミュニティの中で、世界規模で流行するなど新たな課題も発生しています。世界で発生している MPOX 感染者の約半数の方々は HIV 陽性となっているなどの課題もあります。

札幌市といたしましては、HIV 陽性者の治療が適切に受けられ、差別を受けることなく人権が尊重されるよりよい社会になるように努めていきたいと考えています。そのために必要な市民向け情報提供、検査・相談体制の充実をより一層図っていきたいと考えております。

本日の会議におきましては、委員の皆様から、それぞれのお立場からの忌憚のないご意見・ご提言を賜りたく思います。

結びになりますが、本日の協議会が実り多いものになりますようお願いいたします。私からのご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

③ 出席者紹介
(山口保健所
長)

それでは議事に入ります前に、自己紹介をお願いしたいと思います。〔別紙2〕委員名簿のご確認をお願いいたします。委員の皆様の任期は2年間でございます。昨年12月に委員の改選を行ったところでございます。

恐れ入りますが、はじめてお顔を合わせる方もいらっしゃいますので、皆様より、自己紹介をお願いしたいと存じます。

順番につきましては、遠藤会長からということで、池田副会長、佐々木副会長のご紹介の後、その次に天野委員、池田委員と、名簿の上から順番に自己紹介を、お願いしたいと思います。

(遠藤会長)

会長を拝命させていただいております北海道大学病院の遠藤です。病院の方では HIV の診療に携わっています。よろしくお願い申し上げます。

(池田副会長)

副会長を拝命させていただきました医療法人社団池田内科の池田と申します。去年までは札幌医大の方で HIV の診療をしていました

	けれども、一開業医として HIV 診療に関わっていききたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。
(佐々木副会長)	同じく副会長を拝命しております一般社団法人札幌薬剤師会の理事の佐々木と申します。普段は NTT 東日本札幌病院の薬剤部長として薬の管理等をしております。よろしくお願いいたします。
(天野委員)	札幌市歯科医師会で医療管理担当理事をしております天野と申します。よろしくお願いいたします。
(池田詩子委員)	宮の森レディースクリニックの院長の池田と申します。PrEP を始めております。よろしくお願いいたします。
(上埜委員)	札幌市医師会の上埜と申します。札幌市医師会としましても本年の梅毒の増加に対して危機感を感じているところでございます。昨年先生方のご協力もいただき、医師会会員に対して講習会をしていただいています。早期発見のため尽力していきたく思っております。よろしくお願いいたします。
(木寄委員)	北海道新聞くらし報道部の木寄と申します。よろしくお願いいたします。
(坂本委員)	社会福祉法人はばたき福祉事業団の専門家相談員の坂本です。はばたき福祉事業団は薬害感染被害患者さんの支援団体で、札幌市の委託を受けてサークルさっぽろの運営を担っております。 どうぞよろしくお願いいたします。
(高原委員)	札幌市 PTA 協議会から参りました高原と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
(武野委員)	一般社団法人札幌青年会議所から来ました武野純一郎と申します。よろしくお願いいたします。
(谷口委員)	こんばんは。札幌市立高等学校・特別支援学校養護教諭連絡協議会、新川高等学校の谷口と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
(沼田委員)	NPO 法人レッドリボンさっぽろの沼田と申します。レッドリボンさっぽろは毎週火曜日の夜に電話相談をやっておりまして、その他 HIV 陽性者の交流会などもやっております。本日は NPO の立場から参加させていただきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

(藤枝委員)	<p>北海道全域を対象としたラジオ局 AIR-G エフエム北海道の編成制作部の藤枝と申します。昨年の11月に、特別番組という形でこの活動の模様を含めたものを放送させていただきました。今日もこの意見交換会を通して知ったことを、またラジオを通じて伝えていきたいなという風に思っております。よろしくお願いいたします。</p>
(堀口委員)	<p>札幌医科大学医学部血液内科学の堀口です。附属病院の血液内科の方でHIVの診療及び血液疾患の治療をしています。よろしくお願いいたします。</p>
(満島委員)	<p>エイズ及びHIVのサポートグループであるBrastの副代表を務めております満島てる子と申します。よろしくお願いいたします。普段はさっぽろレインボープライドというLGBTQに関する活動団体の副実行委員長をさせていただいておりますけれども、HIVに関する啓発活動の一環として世界エイズデー札幌実行委員会の皆さんと一緒にこちらのお手元にあるカードをはじめYouTubeなどの企画に携わらせていただいております。</p> <p>本日はそういうサポートグループとしての視点も含め、あと自分はゲイ当事者なので、そういう当事者としての視点も含めていろいろ携わらせていただければと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
(宮島委員)	<p>札幌市養護教員会から参りました。</p> <p>札幌市養護教員会は札幌市の幼小中学校の養護教諭で構成されています。私は普段発寒中学校の方で養護教諭として勤務しております宮島みゆきと申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
(渡部委員)	<p>北海道大学病院の医科外来のHIV担当看護師をしております渡部と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
(山口保健所長)	<p>皆様ご紹介どうもありがとうございました。次に、私ども札幌市の方から事務局とオブザーバーということで、ご紹介をさせていただきたいと思っております。名簿裏面事務局の名簿順に、西條局長からお願いいたします。</p>
(西條医務・健康衛生担当局長)	<p>皆さん改めて西條と申します。よろしくお願いいたします。私は3年前の2021年に札幌市に来ることになったんですが、その前までは25年間国立感染症研究所というところで、HIVのセンターの職員ではなかったんですが、長くウイルス感染症の研究をしてきた者でもあります。</p> <p>そういった立場からも、皆さんと一緒にこの課題についてしっかりと考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>

<p>(山口保健所 長)</p>	<p>札幌市保健所長の山口でございます。HIVに関わってから30年過ぎていくところかと思うんですが、初期の頃の、治療法もすごく大変だった時期からすごく治療法も変わりましたし、いろんなHIVに対する検査法も変わっておりまして、そういった意味では、HIV対策というのは非常にどんどん変わっていくところを勉強していかないとなかなか追いついていけないなと感じているところでございます。本日はよろしく願いいたします。</p>
<p>(葛岡感染症総合対策課長)</p>	<p>札幌市保健所の感染症総合対策課長の葛岡でございます。本日はどうぞよろしく願いいたします。</p>
<p>(伊達結核対策係長)</p>	<p>同じく札幌市保健所感染症総合対策課結核対策係、結核という名前がついているんですがエイズの業務も担当しております。係長の伊達と申します。よろしく願いいたします。</p>
<p>(大市保健師)</p>	<p>保健所感染症総合対策課結核対策係でエイズの業務を担当しております大市と申します。よろしく願いいたします。</p>
<p>(菊地保健師)</p>	<p>同じく結核対策係の保健師の菊地と申します。よろしく願いします。</p>
<p>(宮村地域保健・母子保健担当課長)</p>	<p>札幌市保健所地域保健母子・保健担当課長の宮村でございます。本日はオブザーバーとして参加させていただいております。よろしく願いいたします。</p>
<p>(三上衛生研究所保健科学課長)</p>	<p>札幌市衛生研究所保健科学課長の三上と申します。検査の方を担当しています。よろしく願いします。</p>
<p>(山口保健所 長)</p>	<p>また本日、世界エイズデー札幌実行委員会委員長の高橋様にも、後ほど活動のご報告をいただくためにご出席いただいております。よろしく願いします。</p>
<p>(委員一同)</p>	<p>それでは、委員の改選がありましたので、新しい任期に伴いまして、会長を委員の互選により選出をいただくこととしてございます。また、会長が副会長2名を指名することとしております。</p>
<p>(委員一同)</p>	<p>前回までは、北海道大学遠藤先生に会長職をお願いして参りました。事務局案といたしましては、引き続き遠藤様にお願いしたいと思っておりますが、皆様いかがでしょうか。</p>
<p>(委員一同)</p>	<p>異議なし。</p>

(山口保健所 長)	ありがとうございます。それでは、議事の進行につきましては、会長の遠藤先生にお願いしたいと存じます。
④ 議事進行 (遠藤会長)	<p>それでは皆様にご協力いただきながら円滑に議事を進めてまいりたいと思いますのでよろしくお願いします。</p> <p>まず副会長につきましては前回までお願いしておりました池田内科の池田博先生と、札幌薬剤師会の佐々木弘好委員にお願いしたいと思っておりますけれども、よろしかったでしょうか。</p>
(委員一同)	異議なし。
(遠藤会長)	<p>ありがとうございます。それでは続きを進めたいと思います。</p> <p>本日の議事につきましては会議の次第の通り報告事項が3題と、協議事項が1題ございます。</p> <p>終了予定時刻は20時ということになっておりますけれども、この回は様々な職種の皆様が一同にお集まりいただいている非常に貴重な会ですので、ぜひ活発な質疑をお願いしたいと思います。</p> <p>それではまず事務局と世界エイズデー札幌実行委員から報告事項3題と協議事項1題についてまとめてご説明をいただき、その後委員の皆様からご質問等をお伺いしたいと思います。</p> <p>それでは事務局お願いします。</p>
⑤ 報告事項説明 (伊達結核対策 係長) ・報告事項1	<p>事務局結核対策係長の伊達でございます。はじめに、札幌市のエイズ・梅毒の現状についてご説明いたします。</p> <p>お手元の資料の〔別紙3〕をご覧ください。</p> <p>まず、「I-1 HIV感染者・エイズ患者の届出状況」です。届出件数の年次推移ですが、令和5年はHIV感染者が20件、エイズ患者が14件の、計34件で、前年の19件から15件の増加となりました。</p> <p>届出に占める「エイズ患者」の割合、いわゆる「いきなりエイズ」の割合は、令和5年は41.2%となり、昨年26.3%を上回りました。</p> <p>「I-2 性別 年次推移」です。令和5年は、男性が32件、女性が2件で、これまで同様、男性が多くを占めています。</p> <p>次に「I-3 感染経路別 年次推移」です。グラフの青色の部分「同性間 性的接触」によるものが21件で、全体の6割以上を占めています。</p> <p>次に「I-4 感染経路別 累計」です。I-3の年次推移をHIV感染者とエイズ患者に分け、平成元年から令和5年の累計を示したものです。青色の部分が感染経路「同性間 性的接触」によるもので、HIV感染者では約7割、エイズ患者では約5割と、感染経路のうち最も高い割合を占めています。</p> <p>次に「I-5 年齢階級別 年次推移」です。令和5年は、HIV感染者については、30代に集中しており、エイズ患者については、30代から40代に集中しております。</p>

次に「Ⅰ-6 年齢階級別 累計」です。Ⅰ-5の年次推移を年代毎に累計を示したグラフになります。HIV感染者は20代から40代に多く、エイズ患者は30代から40代に多くなっています。また、年代が上がるにつれてエイズ患者の割合が多い状況となっております。

続いて、梅毒患者の届出状況について、ご報告いたします。

「Ⅱ-1 年次推移」です。梅毒の届出件数は、全国の傾向と同様、平成25年頃から増加傾向となり、令和5年の届出は469件、過去最高であった昨年と比較し、30件の増加となっております。また、先天梅毒も3件と過去最多となっております。

次に「Ⅱ-2 性別 年次推移」です。令和5年は、男性が234件、女性が235件で、ほぼ同数となっております。令和4年と比較し、男性は届出数が減少していますが、女性は増加しています。

次に「Ⅱ-3 性別 感染経路別 年次推移」です。令和5年は男女ともに「異性間性的接触」が8割以上を占めております。

次に「Ⅱ-4 性別 感染経路別 累計」です。Ⅱ-3の年次推移を男女別の累計で示したものになります。男女ともに「異性間性的接触」の割合が最も多くなっていますが、男性では「同性間性的接触」も1割程度見られています。

次に「Ⅱ-5 性別 年齢階級別 年次推移」です。令和5年、女性は20代が特に多く、男性は20代から50代まで幅広く感染が広がっています。

次に「Ⅱ-6 性別 年齢階級別 累計」です。これはⅡ-5の年次推移を男女別の累計で示したものになります。女性は20代から30代に多く、男性は20代から50代が多い状況となっております。

続きまして、札幌市のHIV相談・検査状況についてご説明いたします。

まず相談・検査の体制についてですが、相談は、各区保健センターに「エイズ専用相談電話」を設けて対応しているほか、札幌市HIV検査・相談センターである「サークルさっぽろ」でも検査時に相談対応をさせていただいております。「サークルさっぽろ」の運営につきましては、札幌市から「社会福祉法人はばたき福祉事業団」に委託しております。

次に、検査体制ですが、毎週土曜日の検査については、「はばたき福祉事業団」に委託し、「サークルさっぽろ」でHIV検査を実施しております。それ以外の検査は直営で行っており、希望者にはHIV検査に付随して梅毒検査も実施しております。頻度や定員は表のとおりとなっております。

続きまして、年度別の相談件数です。令和5年度は1月までの累計です。右上の表はコロナ前の令和元年度と、昨年度の1月までの件数を比較したのになります。

次に、年度別の HIV 検査件数です。表の青色が平日検査、赤色が夜間検査、黄緑が休日検査、オレンジ色が土曜日のサークルさっぽろの検査となっております。

右上の表は、コロナ前の令和元年度と、昨年度の1月までの件数を比較したものになります。

令和2年度、3年度はコロナ対策による検査の一時休止や規模縮小の影響を受けまして、コロナ流行前より減少しておりました。

令和4年度以降はコロナ前と同様の体制としておりますが、令和5年度は1月時点で令和4年度と同じ時期の件数を上回っており、コロナ前の令和元年度と比較し86%まで検査件数が回復しています。

なお、陽性者数ですが、令和5年度は直営検査で3名、土曜検査で7名、計10名であり、最多であった平成27年に近い多さとなっております。

続いて、平成30年度から開始しました梅毒検査の状況についてです。こちらは直営の HIV 検査に付随して梅毒検査を実施した件数を表しています。

令和5年度は1月までの集計ですけれども、直営で HIV 検査を受けた方1,071名のうちの97%となる1,038名が梅毒検査も一緒に受けております。

検査件数は昨年同時期と比較し26%の増加となっており、コロナ前の令和元年同時期と比較し95%の件数となっております。

梅毒検査で陽性となった方は33名おまして、医療機関への受診を勧奨しております。

札幌市のエイズ・梅毒の現状についての報告は以上です。

⑥ 報告事項説明

(伊達結核対策係長)

・報告事項2

続きまして、令和5年度の札幌市エイズ予防対策実施状況についてご報告いたします。〔別紙4〕をご覧ください。

今年度新たに行ったものにつきましてマーカーを引いておりますので、ご参照いただければと思います。

普及啓発事業ですが、市民全般を対象としたものと、個別施策層を対象としたものを実施しております。

今年度は本協議会委員でもあります、AIR-Gの藤枝様、PTA協議会の高原様、北海道新聞の木寄様にもご協力をいただき、ラジオ広報、PTA協議会での周知、新聞記事の掲載をいただき、市民全般向けの普及啓発を実施しました。

世界エイズデー予防啓発キャンペーンについては、昨年度に引き続き世界エイズデー札幌実行委員会に委託をしております。後ほど世界エイズデー札幌実行委員会の高橋委員長より、今年度の取組についてご報告いただきます。

若年層向け施策のうち、皆様のお手元にお配りしているレッドリボンスタディカードの作成、配布は世界エイズデー札幌実行委員会へ委託をしております。

医療機関との連携については、協議会委員でもあります札幌市医師会の上埜先生や、会長の遠藤先生のご協力もいただきまして、医師会と共同で梅毒・HIV 感染症に関する研修会を、医療機関向けに開催いたしました。

その他、昨年 9 月に市内の皮膚科、泌尿器科、婦人科など 363 施設へお知らせを送付いたしました。お知らせについても皆様のお手元にお配りしております。

次に、相談・検査事業等についてでございます。今年度は記載のとおり実施いたしております。

「⑤LGBT 向け検査」につきましては、これまで「MSM 向け」としておりましたが名称を変更し、定員 60 名を 80 名に増加し実施しております。

この検査に関する周知については、NPO 法人レッドリボンさっぽろに委託いたしました。今年度の夜間エイズ検査と休日エイズ検査はすべて予約が満員という状況です。

令和 5 年度札幌市エイズ予防対策実施状況の報告については以上です。

続きまして、令和 6 年度エイズ予防啓発キャンペーン実施状況について世界エイズデー札幌実行委員会高橋委員長よりご報告させていただきます。

⑦ 報告事項説明
(高橋実行委員長)
・報告事項 3

世界エイズデー札幌実行委員会の高橋と申します。令和 5 年度のエイズ予防啓発キャンペーンの実施状況についてご報告いたします。まず、ライトアップによる広報ですが、昨年、札幌市時計台の方で初めてレッドリボンの赤い色に時計台をライトアップするという取組を行わせていただきました。

今年度は札幌市資料館を追加ということで、日没から 20 時までということでかなり短い時間でしたので、11 月 30 日、12 月 1 日の 2 日間行わせていただきました。今回ライトアップの様子について、札幌市時計台で満島てる子さんに SNS でライブ配信を実施していただきました。

今後も、協力していただける施設など探しながら増やしていけると考えています。

ラジオによる広報です。昨年 2 週に渡って放送させていただいた、ラジオ広報だったんですけども、今回は大変残念ではあります。11 月 25 日エイズデー直前の土曜日に 1 回放送させていただきました。内容については、世界エイズデーの告知と HIV やエイズに関する基礎知識、それと札幌市の AIDS 検査情報の周知をさせていただきました。

こちら LGBT 向けマッチングアプリ広報ということで、今回初めての取組といたしまして、11 月 25 日から 12 月 1 日までの 1 週間 MSM の方のゲイ向けアプリなんですけれども、こちらのマッチングアプリで、バナー広告を掲載いたしました。

こちらの画面右側の方がスマートフォンの画面になりまして、北海道地区と東北地区の方を対象に、このバナーが表示されるというようなものになっております。

このバナーをタッチすることで、札幌市のエイズ検査情報にアクセスできるという仕組みになっております。

バナー広告の表示数とクリック数ということなんですけれども、表示回数については、25日から徐々に少なくなってきたはいるんですけども、初日で181,179回ということで、かなりの方にご覧いただいているような状況です。12月1日最終日につきましても、83,000回ほど表示されております。クリック数については283回、194回、147回、130回、68回、83回、68回ということで、徐々に下がってきてはおりますが、たくさんの方にアクセスいただきました。

最後に、レッドリボンスタディカードの設置についてですけれども、こちらは2022年に制作した若者向けの予防啓発動画レッドリボンスタディにアクセスできるカードを制作いたしました。

皆さんのお手元にもあるかと思うんですが、こちらの中を開いていただくとそれぞれ項目別に勉強ができるようになっております。裏面には、札幌市のエイズ検査の情報ですとかサークルさっぽろにアクセスできるアドレスを掲載しております。

こちらについてはまだ余分に制作しておりますので、もし委員の皆様の中でも設置にご協力いただける方がいらっしゃいましたら、ご一報いただければと思います。

札幌市内の大学、短期大学、専門学校、その他市内の各施設に配布をさせていただいております。

最後にまとめになりますけれども、内容としてあまり目新しさに欠ける内容だったかなという風に考えております。

唯一新しい取組として行ったLGBT向けのマッチングアプリへのバナー広告掲載ですが、こちらも今後継続するかどうかということについても、内容を検討していけたらと考えております。

今回ちょっと残念だったのは、HIVの陽性者の方への差別偏見の解消を訴える取組というのが、具体的に行えなかったという風なところでちょっと取りこぼしがあったかなという風に考えております。来年度、どういった内容で行っていくかということについての皆さんの忌憚のないご意見をいただければと思います。

報告は以上になります。ありがとうございました。

⑧ 協議事項説明
(伊達結核対策係長)

続きまして、令和6年度の札幌市エイズ予防対策実施計画案についてご説明いたします。〔別紙5〕をご覧ください。

令和6年度につきましても、世界エイズデー札幌実行委員会やレッドリボンさっぽろと協働して普及啓発を行っていきたいと考えております。

また、委員の皆様からの貴重なご意見やご協力を得ながら、普及啓発を行っていきたいと思っております。

コロナの影響でこれまで中止や動画配信としておりました学生向け出張講座については、来年度より対面での出張講座を再開する予定です。こちらは世界エイズデー札幌実行委員会へ委託をする予定です。

また、検査事業につきましては、LGBT 向け検査を含む休日エイズ検査の定員を 80 名から 96 名へ増員する計画でございます。

以上これらの事業につきましては、継続して実施していくことが重要であるという風に考えております。簡単ではございますが、令和 6 年度の札幌市のエイズ予防対策実施計画案につきまして、事務局からの説明は以上でございます。

⑨ 議事進行
(遠藤会長)

ありがとうございました。質疑に入る前に宮の森レディースクリニックの池田先生から PrEP と MPOX についての現場での状況や取組の状況についても報告をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

⑩ 情報共有
(宮の森レディースクリニック
池田詩子委員)

スライド 2 枚の資料になります。宮の森レディースクリニックのレジュメです。

宮の森レディースクリニックでは去年の 11 月から、HIV に感染する前から飲んで HIV の感染を予防できるというやり方の PrEP を開始しております。PrEP の検査と処方の方はそんなにまだ数は多くないんですけども、ご覧の通り検査のみの方が 3 名と、処方の方が 12 名くらいいらっしゃっていて、最近女性の方が 1 名いらっしゃって、はじめて女性の方も受け入れています。

資料のとおりツルバダ系、デシコビ系と途中から切り替えてる方もいらっしゃいます。

MSM の方がほとんどですけれども、女性の方が風俗で働いていらっしゃる方と自分の体を守りたいという方で、こんな感じでいらっしゃってました。

実は少ない中ですが梅毒例が 3 例出てまして結構梅毒は増えてきているんだなと感じてます。

MPOX の臨床研究なんですけれども、国立国際医療研究センターが厚生労働省の費用で始めた男性間性交渉者におけるサル痘のアクティブサーベイランス、無症状の方の MPOX の事実を調べるという検査を始めました。当院でも PrEP をしてるということで一緒にやりましょうということで、去年の 5 月から参加して 8 月から検査が実際に開始してましたけども、2024 年 1 月末までに MSM の方が 11 例とトランスジェンダーで注射を打ってらっしゃる MTF の方が 3 名検査をされまして、20 代から 50 代なんですけど 3 in 1 というのが 3 か所、肛門とうがい液と尿を全部混ぜて出す検査が 9 例と、2 in 1 は 2 か所、うがい液と尿を出す検査を 5 例実施していますけど、ラッキーなことにまだ 1 例も陽性者が出ていないという状況で、この後もう一人いらっしゃいますけど今のところ札幌では MPOX は出ていませんという状況です。以上です。

⑪ 質問・協議
(遠藤会長)

ありがとうございました。それでは報告事項と計画をまとめてお話しいただきましたけども、たくさんありますので少し分けてご質疑の方へ行きたいと思えます。まず最初に札幌市の現状のところについて何かご質問ですとかご意見はございますでしょうか。

別紙3を見ますと、かなり札幌市でのエイズ発症者も多いですし、HIVに新規に罹った人が多くて過去2番目ということですね平成27年が過去最多だったんですけども、令和5年度は過去2番目ということでかなり多いなという印象がありますけども、現場で見ますとやはり過去3年間でコロナの影響で検査数が非常に少なく、その反動で検査が再開になったということで検査を受けられる方が多かったということもあると思うんですけども、エイズ発症者もかなり多いのでやはり検査が受けられなくてエイズ発症まで至ってしまったというの、目立つのかなという風に思っております。

(上埜委員)

梅毒検査で陽性33名という話だったと思うのですが、医療機関に受診勧奨したということですけど、全例受診したかどうかはわかるのですか。

(菊地保健師)

こちらから医療機関を紹介する際に紹介状を発行させていただいております。紹介状の返書が病院から保健所に届くようになっております。陽性者全員に紹介状を発行しているわけではなく、例えば過去に梅毒の治療歴があつて受診先が決まっている場合などは紹介状を発行しない場合もあります。陽性者33件中、医療機関へ紹介しているのは24件で、そのうち23件の返書を受理しております。

(遠藤会長)

同じようにサークルさっぽろでも検査をしていると思うんですけどそちらの方の受診率っていうのは、数はわかりますでしょうか。

(坂本委員)

札幌市の陽性者10名のうち、7名の方がサークルさっぽろで陽性がわかっていて、受診確認票で確認できている受診率は、約90%くらいかと思えます。今年度、別なところでも検査を受けて陽性と言われているので、サークルさっぽろの結果を聞きに行かないとご連絡をいただいた方が1名いました。それ以外の方には結果をお伝えできていまして、6名のうち1名だけ受診確認票が戻ってきていないので、病院に繋げている受診率は高いと思っております。

(遠藤会長)

その他いかがでしょうか。資料3の、スライド11枚目を見ますと梅毒が令和4年からものすごく増えていることを考えますと、おそらく感染経路が同じHIVというものもなかなかまだ下がる傾向にはなっていないのかなという懸念がございますけれども、引き続き、皆様のご協力をいただきたいと思います。

あと、私から一つご質問なんですけれども、医療機関向けのパンフレットを皮膚科ですとかそういったところにお配りいただいたと

ということなんですけども、これに関して何かその医療機関の方から逆に問い合わせですとかそういったものは何かございますでしょうか。

(菊地保健師)

こちらを送った後に医療機関から、梅毒を診断したときにHIVの検査をした方がいいですかとか、どんな検査をした方がいいですかというような問い合わせはこちらに3件程度ありました。

(遠藤会長)

ありがとうございます。確かにHIVの検査もいくつかあるのであまり詳しくないとどの検査を出していいかわからないということもあるので、スクリーニング検査とは書いてますけど、もしかすると具体的な検査、検査会社の項目名みたいなものがあるとより出しやすいのかなという風にも思いました。他いかがでしょうか。

(佐々木委員)

別紙8に政令指定都市のエイズ患者の推移があって、これ興味があって、もしあれだったら調べていただきたいんですけども、1位名古屋市、2位大阪市、3位札幌市って札幌市が3位なのもちょっとびっくりしたんですけども、青い線の大阪市の動きが、結構特徴的かなと思っていて、別紙6の国内の動きっていうのが載っていて、何となくこれがリンクしてるのかなという風に思ってしまうんですよね。

別紙6の国内の6ページ目の動きと大阪市の動きが何かリンクしてるかなと思って、大阪市も平成27年頃から右肩下がりでずっと下がってきて、大阪市に何があったんだろうっていうのがとても興味があって、もしわかったら調べられるかなとは思いますが、いかがでしょう。

(菊地保健師)

なぜ大阪市が減ってきてるかというところまでは直接大阪市に確認できておらずわからないので、大阪市に情報確認してみたいと思います。

(遠藤会長)

参考になるかどうかなんですけども、人口10万人当たりの保健所等での検査件数は圧倒的に大阪が増えたんですね。

ですのでそういったところが積み重なって、感染者がどんどん減ってきてる可能性はあるかなと思います。

その他いかがでしょうか。令和5年度のエイズ予防対策実施状況のところ、何かございますでしょうか。こちら黄色いマーカーが引いてあるところが新規に行ったものということで今年度はかなりたくさん新しい取組をしていただいたということなんですけども、その辺はいかがでしょう。

先ほど少し聞き逃してたんですけども、この検査でいつも満員になってるっていうのは、休日の検査でしたでしょうか？

(菊地保健師)

夜間と休日の検査どちらもです。

(遠藤会長)	<p>夜間と休日のどちらも、満員で全て定員が埋まったということですね。</p> <p>おそらくそれを踏まえて令和6年度は、休日の部分は増員していただいたということかなと思いますけども、夜間も満員ということであれば、夜間の増員というのはちょっと難しいことなんでしょうか？夜間は定員が同じになっていて、休日の方は80名から96名に、令和6年度は増やしていただいているのだと思います。</p>
(菊地保健師)	<p>検査の場については今後検討していきたいと考えています。</p>
(遠藤会長)	<p>おそらく定員がいっぱいになるということはニーズが非常にあると思いますのでそういったところには重点的にやっていくのも一つ大事なことだなという風に感じました。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
(上埜委員)	<p>満員になるより余るぐらいの方がいいと思うのです。満員というのは要するに検査を受けられていない人がいるってことだと思うのですが、96名というのは今のキャパシティの努力された結果になったことを理解しているのですが、ボトルネックという言い方がいいかわかんないですけど、もう少し増やそうってことってどこに問題があるのか、もしくは増やす検討があるかも含めて、教えてください。</p>
(伊達結核対策係長)	<p>今の体制でやっていくには96名が限界かなということもあるのですが、おっしゃる通りニーズはたくさんあると思いますので、どういふふうな工夫をしたら増員という形でできるかを検討していきたいと思います。</p>
(上埜委員)	<p>この施設で今ある枠組みでやろうと思うと96名が限界かなという認識で良いでしょうか。</p>
(伊達結核対策係長)	<p>はい。</p>
(上埜委員)	<p>わかりました。ありがとうございます。</p>
(遠藤会長)	<p>マンパワー的ということが一番でしょうか。予算とかいろんな理由があると思うんですけども、一番はマンパワーなのでしょうか。</p>
(伊達結核対策係長)	<p>限られた時間の中で皆さんになるべく待ち時間を少なくして、やる体制っていうところでの限界かなと思います。</p>
(遠藤会長)	<p>時間枠ということですね。</p>

(伊達結核対策
係長)

それもあるかなと思います。

(遠藤会長)

他いかがでしょうか。

(池田博委員)

HIV 検査件数、資料Ⅲ-3 のところで、やはり件数は伸びていて、いきなりエイズは今年非常に多いということは、検査件数に関しても増えていくことによっていきなりエイズの人もあぶり出されるということもありますので、検査件数を増やしていくというのは非常に大事なのかなと感じました。

質問としては、コロナ前の 86%まで回復してるのにも関わらず、いきなりエイズが増えていますよね。大阪とかはいきなりエイズが減っているんですけど、やはり受診ができなかったコロナ禍の影響は結構大きいのかなと考えたんですけど、そういうように感じていてよろしいのでしょうか。

(伊達結核対策
係長)

私どもの方でもコロナ禍の影響はあると感じています。

(遠藤会長)

その他いかがでしょうか。

(満島委員)

別紙の 4 から 5 に渡っての質問及び提言みたいな形になってしまうかもしれないのですが、コメントもさせていただければという風に思います。

令和 5 年度の地域普及啓発事業に関して、世界エイズデー札幌実行委員会に関するものを中心に、私もいろいろ携わらせていただいたんですけども、少し肌感として、市民全般に向けた普及啓発の取組内容がコロナ以前と比較するのはどうかという風に思うんですけども、少し縮小傾向にあるのかなという風に感じているところがあります。先ほど世界エイズデー札幌実行委員会実行委員長の高橋さんから、少し HIV の陽性者に対する差別や偏見に対する取組が今年できなくて残念だった、ということコメントしてらっしゃったと思うんですけども、以前であれば例えばこういう予防啓発キャンペーンなどはもちろんのことなんですけれども、それだけでなく実際に市民が足を運んで、そこで様々な話を聞くようなイベントであったり、例えば世界エイズデーシアターで少し演劇的なものを通じてそこから啓発を行っていくという事業であったりだとか、実際に集まって市民が話を聞くという企画があったように思うんですよね。

そうした内容が、今後私としてはもうせっかくコロナが一旦落ち着いたと言っているのかどうかというのは難しいところではあるかもしれませんが、これから直接的に人を集めるイベントができるというような世間的な風潮の中、ちょっと盛り込まれていないのが残念だなという風に思いながら、拝見していたことと、別紙 4 から 5 を見ましても、これから 5 の方は案なので、普及啓発事業の実際の

肉付けというのは今後なされていくところなのかなという風に思いますが、様々なその啓発に関してメディアやPTA 協議会への啓発などの部分は盛り込まれていないなというのを考えると、少しその部分を逆にこの HIV の陽性者の数が増えてきていて検査数も増えていかなければならないときに、そこに対する意識啓発みたいなのが本当はあるといいのではないかなという風にこちらの方二つとも見ながら思っていたところです。

その点に関して札幌市側でもいいですし、ぜひ委員の皆さんもここにこういう風に関われるのではないかな等意見があれば出していただきたいという風に思うんですけども、いかがでしょうか。

(遠藤会長)

札幌市の方から、ただいまの件につきまして、意見ありますでしょうか。

(伊達結核対策係長)

ご意見ありがとうございます。こちらの方といたしましても、おっしゃる通り、せっかくコロナが明けて人が集まれるイベント的なものもできる状況になったので、そちらの方はぜひ実行できることをみんなで考えていきたいと思えます。

(遠藤会長)

せっかくなので、そちらの方は世界エイズデー札幌実行委員会の高橋様どうでしょうか。

(世界エイズデー札幌実行委員会 高橋委員長)

そうですね、別紙4を見ると、今回、初めて直営という形でいろいろ新しい取組も行っていただいているというところは、とても嬉しいことだと考えています。

実際に先ほど検査の事業のときにもお話が出ましたけれども、マンパワーの部分ですとか、予算の部分ですね。

みなさん札幌市の予算っていうのは毎年5%ずつカットされていくっていうのはご存知でしょうか。そういったところの中でも、かなり私自身も一市民であって、市の担当ではないんですけども、そういった状況を見ながら、市の担当の皆さんがかなり踏ん張ってくださっているなというのは実感しております。

今後ですね、コロナ禍以前のような積極的な取組をしていきたいという気持ちはあるんですけども、やはりちょっと難しいかなっていうのも、感じております。

私ども世界エイズデー札幌実行委員会としては、今までずっと札幌市の委託事業というような形で行っていたんですけども、私どもでも自前の事業を行っていくような取組というのを検討しつつ、今後も少しでも広がりを見せていけるような、活動ができたらと考えております。

(遠藤会長)

はいありがとうございます。

その他、この件につきましてご意見ございますでしょうか。

(高原委員)

今年度、初めて札幌市PTA協議会理事会において、札幌市保健所より啓発周知を行っていただきました。

理事会には10区の代表が集まっており、私は豊平区を代表しているので、そのあと豊平区PTA連合会でも啓発周知を行っていただきましたが、他の区からも反響はあったものの、残念ながら今年度中に他の区で実施することはありませんでした。ただ、PTAは子どもの入学・卒業により会員がどんどん入れ替わる組織のため、継続して啓発周知を行っていただければと思っております。ご相談いただければご協力できることもあると考えておりますのでよろしくお願いいたします。

(遠藤会長)

ありがとうございます。その他はいかがでしょうか。

(沼田委員)

レッドリボンさっぽろの沼田です。

レッドリボンさっぽろも世界エイズデー札幌実行委員会に個人で協力させていただいております。先ほどの高橋委員長の方からも「HIV 陽性者の差別偏見をなくすような活動を…」とおっしゃっていましたが、レッドリボンさっぽろでは陽性者スピーカーも派遣しておりますので、そういったところでもご協力できたらと考えております。

また、先ほどLGBT向けマッチングアプリの広報の件数など、すごく丁寧に細かく出していただきました。数が評価になることは多いかと思いますが、実際に数だけではなく、こういう活動をしてそこに反響があることや、アプリ広告を出しているということ自体も大事であり、数だけではなく評価されるべきことはあると思います。

おそらく、数というのは、一番評価しやすく、その評価で予算は組みやすいのかなとは思いますが、難しい部分もあると思いますが、「きちんと継続してやっている」というところも評価し、予算など考慮いただけたらいいと思います。

(上埜委員)

札幌市医師会でも、他にも地域保健部長をやっていますので、例えば乳がん検診や子宮頸がん検診なども、啓発セミナーをしたり、他の市民向けの講座とかでも、今年度は講座で市民が集まるブースにそういったポスターを貼って啓発活動などを行っています。それであれば、ご協力できるかと思うのですが、なにぶん資料があまりないものですので、ご提案いただければご協力できるかと思っております。啓発等についてもご協力できるかと思っておりますのでご連絡いただければと思います。

(遠藤会長)

はい、ありがとうございます。

おそらく予算やマンパワーなどいろんな問題があるかと思いますが、けども必要などころにしっかりと届くような活動を今後もお願いしたいと思います。他にいかがでしょうか。

(渡部委員)

感想というか現場で感じていることなんですけれども、一つは先ほどの大阪の減少のところ、印象としては検査の受け皿が多いのもそうですし、東京とか大阪はPrEPが非常に普及していますので、そういう意味で予防に繋がっているのではないかとこのところでは、まだ北海道や札幌ではそうになっていないので、陽性者が増えているのかなと感じております。

あとは今年陽性者が非常に多くて、当院初診で来院する患者さんが本当に多かったのですが、やはりほとんどが医療機関からの紹介っていうので、ただ内訳を見ていきますと、泌尿器科さんですとか、市中のクリニックさんの方で急性感染のタイミングでご紹介いただくケースもありましたし、全てがエイズ発症ではなくて医療機関でも早期発見のところ、繋がってるケースもあったなと思うと、本当に医療機関でHIV検査に繋がっていくところは非常に重要なのかなっていう風に思いました。

また献血での陽性判明ですとかそういったケースも少なからずあったりしますのでやっぱりそういったところが本来の検査のところ、発見できるようになっていくと良いのかなと思っております。

感想です。ありがとうございました。

(坂本委員)

今年、サークルさっぽろの相談が増えてきているというところで、今、渡部さんがPrEPっておっしゃってたんですけど、PrEPの相談は全体の1割ぐらいになりました。

正しい情報を伝えることが大事だなという風に思って対応しているのと、医師会の上埜先生が協力してこの文書を出していただいた効果として、サークルさっぽろにも医師からの問い合わせがありました。

梅毒を診断したがHIV検査については、サークルさっぽろを紹介してもいいですかというような皮膚科の医師からの問い合わせや、HIVは専門外でわからないではなく、ご自分で調べて検査をしたけど、詳しい事はサークルさっぽろさんに行って検査してみてもと言われて受検者さんもいて、そういった相談内容も相談対応していると肌感覚ですが増えてきたかなと思います。この医師会とタイアップで取り組むのは継続されていくと大変良いのではないかとか思っています。

(遠藤会長)

はいご意見ありがとうございます。PrEPが全国的に非常に、東京大阪は特にですけども、増えてきているので、札幌ではなかなか数が少なく、今池田先生のところ、やっていたいただいておりますけれども、これに関して何かご意見はございますでしょうか。

非常に大事な取組かと思しますので池田先生の方ではまた引き続きお願いしたいと思えます。

その他、何かございますでしょうか。

それではまずここで皆様にお諮りしたいと思えますけども、令和6年度の札幌市エイズ予防対策実施計画につきまして事務局の原案通りの承認としてよろしかったでしょうか。

(委員一同)

いいです。

⑫ 他質問・報告事項等
(遠藤会長)

はい、ありがとうございます。

そうしましたらこちらの方承認とさせていただきます。

その他に全体を通しまして委員の皆様からご意見ご質問など、何かございますでしょうか。

(上埜委員)

先ほどいくつかご指摘あった通り医療機関で拾い上げるのは、むしろそちらが非常に大事だということは意識しています。札幌市の方で検査をするのも限界があるわけですし、そこは我々医師会が率先して働いていかなきゃいけない部分だと思っておりますので、検査数を増やすという言い方をちょっとしましたけど、札幌市に全部任せるという意味ではなくて、札幌市医師会としましても、啓発活動を通して、やはり地域のかかりつけ医が早期に咽頭カンジダだとか、梅毒とかを診たときに、そこでHIVを思い浮かべるという点がまだやはり十分とは医療機関でもいえないところもありますので、そこら辺を周知していきたいかと思えます。

ちょっと一言付け加えさせていただきました。

⑬ 議事終了
(遠藤会長)

検査の啓発も大事ですし、我々直面している問題としてその診療拒否というのが医療機関で今はすごく多くというか、以前からずっと減らない状態がありますのでその辺も含めまして医師会の方とまた協力してやっていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

その他全体を通しましていかがでしょうか。

それではこれで本日の議事を終了させていただきたいと思えますが、委員の皆様には所属されている職場または団体としまして積極的なまん延防止に向けた啓発活動をお願いしたいと思えます。

少し時間を超過してしまい申し訳ありませんでした。それでは本日は皆様のご協力をいただきまして非常に活発な議論をすることができました。ご協力ありがとうございました。

閉会にあたりまして事務局から連絡事項がありましたらお願いします。

⑭ 連絡事項
(山口保健所長)

会長の遠藤先生議事の進行どうもありがとうございました。

委員の皆様のご審議もどうもありがとうございました。

⑮ 閉会
(山口保健所
長)

令和6年度につきましても、本市のエイズ対策にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

次の協議会につきましては、来年の2月頃の開催を予定しておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上を持ちまして、札幌市対策推進協議会を終了させていただきます。本日は皆様ご出席いただきましてまたご意見をいただきましてありがとうございました。